



インフルエンザ最新情報 「タミフル」について

来るべきインフルエンザシーズンに備えて予防接種が始まりました。この数年でインフルエンザの診断や治療は大きく変化しましたが、新たな問題も発覚しています。その中心となっている治療薬『タミフル』についての最新情報をお知らせします。

未成年に使用する時の注意

'05年11月、タミフル服用後に2人の患者が異常行動から事故死。アメリカ食品医薬品局が、タミフルを服用した日本の小児患者12人が死亡したと公表。他国では皆無。'07年2月、タミフル服用後の事故が続き、厚生労働省が医療関係者に注意を喚起。同年3月、厚生労働省が十代の未成年患者への使用制限を緊急発表。タミフルは国内発売以来、のべ3500万人が使用し、服用後の死亡は54人、異常行動の結果亡くなったのは5人、年齢は12～17歳だった。

このような経過から、未成年がタミフルを使用する際には以下のような注意が必要です。

① 10歳以上の未成年では原則として使用を差し控える。

② 薬による異常行動の恐れがあることを知る。

③ 投与開始後、最低2日間は患者が一人にならないようにする。

また、1歳未満では使用経験が少ないため、安全性は確立していません。幼若ラットに投与した海外の試験では、脳での暴露量が成熟ラットに比較して1500倍になったとの報告もあります。

予防使用の条件

以下の二つの条件を満たす人に限り、予防使用

が認められています。

① インフルエンザ患者の同居者。

② インフルエンザにかかると重症化しやすい65歳以上の高齢者および13歳以上のハイリスク疾患（慢性呼吸器疾患・慢性心疾患・代謝性疾患・腎機能障害）患者。

なお、医療保険は使えずに自費診療となります。

タミフルよりも予防接種

タミフルは全世界使用量の約75%を日本で消費しています。特に子どもへの使用量は2位のアメリカと比べて約13倍も多く、このような過剰の使用が問題を生み出しているのではないのでしょうか。インフルエンザ治療の基本は薬ではなく予防接種です。多くの人が接種をすることで、大きな流行を防ぐことができるのです。

【広報おかや 11月1日号掲載】

